

第2学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ わくわく算数学しゅう			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	6~9	○100までの数の(何十何)±(何十)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。

1 ひょうと グラフ

目 標				指導時数・時期
○ 身のまわりの数量について、表やグラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考えたり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				3時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
(知)・身のまわりの事柄について、簡単な分類・整理の仕方を理解し、表やグラフに表したり、それをよんだりすることができる。				
(思)・身のまわりの事柄について、表やグラフを用いてその特徴を考えることができる。				
(態)・表やグラフのよさがわかり、表やグラフを通じて身のまわりの事柄の特徴を捉え表そうとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	122	・1年「かずしらべ」	○既習事項の理解を確かめる。
課題設定	1	10~12		○好きな遊びの調べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 【態度】
	2	13		○表や●グラフを用いて、分類・整理したり、そこから事柄の特徴を考えたりする。【思判表】
	3	14~15		○調べたい観点を決めて、表や●グラフに整理する。【知・技】

2 時こくと 時間

目 標				指導時数・時期
○ 時刻や時間について、その意味の違いを理解し、時計を操作する活動を通して時間を求めたり午前・午後を用いて適切に時刻を表現したりすることができるようになるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬
(知)・時刻と時間のちがい、午前と午後の区別や正午の意味、日・時・分の関係がわかり、時計の針の動きをもとに、時刻や時間を求めることができる。				
(思)・日常生活と関連づけて、時刻や時間について調べたり、午前や午後といった用語を適切に用いて表現したりすることができる。				
(態)・1日の生活時間に関心を持ち、いろいろな時刻や時間について進んで調べようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	122	・1年「なんじなんぶん」	○既習事項の理解を確かめる。
課題設定	1	16~17	・導入で、時計の読み方を確認する。	○1日の生活場面の時間を調べることを通して、単元の課題をつかむ。 【態度】
		18	・時計の模型を活用して学習を進める。	○時計の針の動きから簡単な時刻と時間を求める。【知・技】
	2	19	・時計の模型を活用して学習を進める。	○1時間が60分であることを理解する。【知・技】 ○9時25分の1時間後や1時間前、30分前の時刻を求める。【思判表】
	3	20~21	・時計の模型を活用して学習を進める。	○午前・午後の区別と正午の意味や1日は24時間であることを理解する。【知・技】 ○午前8時から午後3時までが何時間かを求める。【思判表】
学びのまとめ	4	22~23	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう

3 たし算と ひき算

目 標				指導時数・時期
○ 2位数の加減計算について、(2位数)±(1位数)の暗算のしかたを考えたり説明したりすることを通して、簡単な加減計算を暗算でできるようになるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬
(知)・(2位数)±(1位数)の暗算の仕方を理解し、その計算を暗算でできることができる。				
(思)・既習の1位数の基本的なたし算やひき算をもとに、簡単なたし算とひき算の計算のしかたを考え、説明することができる。				
(態)・簡単なたし算とひき算を暗算で計算するよさに気づき、(2位数)±(1位数)を暗算でしようとする。				

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	123	・1年「たしざん」「ひきざん」「10より大きいかず」	○既習事項の理解を確かめる。	
課題設定 1 たし算	1	24	・導入で、17+2の計算の仕方を確認する。	○既習の17+2の計算をもとに、17+3の計算をするという課題をつかむ。【思判表】	★もっとれんしゅう p.128に進む。
		25	・半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○暗算の仕方を考え、(何十)+(何)で和が何十になる暗算をする。【知・技】	
	2	26~27	・半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問9の①や問10の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算をする。【態度】	★もっとれんしゅう p.128に進む。
課題設定 2 ひき算	3	28	・導入で、19-8の計算の仕方を確認する。	○既習の19-8の計算をもとに、20-8の計算をするという課題をつかむ。【思判表】	★もっとれんしゅう p.128に進む。
		29	・半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○暗算の仕方を考え、(何十)-(何)で差が何十何になる暗算をする。【知・技】	
	4	30~31	・半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問9の①や問10の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○数のまとまりに着目して、(何十)-(何)で繰り下がって何十何になる暗算をする。【態度】	★もっとれんしゅう p.128に進む。
学びのまとめ	5	32~33	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問2・問3 【思判表】たしかめよう問1 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

4 長さ

目標

目標						指導時数・時期
○ ものの長さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してのさしで長さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようになるとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。						9時間 2学期制：5月上旬～5月中旬 3学期制：5月上旬～5月中旬
(知) ・ものさしのしくみや使い方、長さの単位「cm」「mm」の読み方や書き方、単位の関係を理解し、長さを「cm」「mm」の単位を用いて表すことができる。また、ものさしを使って、長さを測定したり直線をかいたりすることができる。						
(思) ・長さの普遍単位の必要性に気づく。また、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりすることができる。						
(態) ・長さとその測定に興味をもち、いろいろなものの長さを調べたり、長さの量感を身近な場面でいかそうとしたりする。						

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	123	・1年「おおきさくらべ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	34	・導入では、大きさの異なるものを単位として長さをはかると比べられないことを丁寧におさえる。こぶしの絵を用意しておき、それで長さをはかった様子を示したり、こぶしの大きさを比べたりするといい。	○魚の長さ比べ方を通して、単元の課題をつかむ。【態度】 ○普遍単位の必要性に気づき、1cmのいくつ分で長さを表す。【知・技】	
		35			
	2	36~37	・問3で、ものさしの正しい使い方を丁寧に確認する。	○ものさしで長さを測る。【知・技】	★身のまわりのいろいろなものの長さをはかる。
	3	38		○はがきの縦の長さを30cmものさしで測り、1mmのいくつ分で長さを表す。【知・技】	★身のまわりのいろいろなものの長さをはかる。
	4	39		○直線の長さを測ることを通して、cmとmmの単位の関係の理解を深める。【思判表】	★もっとれんしゅう p.129に進む。

	5	40~41	・問4は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱ってもよい。	○ものさしを使った直線のかき方を理解し、7cmなどの示された長さの直線をかく。【知・技】	★点と点を結んで直線をかく練習をくり返す。
	6	42		○10cmの長さをテープなどでつくり身のまわりから見つけたりして、10cmの量感を身につける。【態度】	
	7	43		○10cmの量感をもとにして、身のまわりの10cmをこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。【思判表】	
	8	44~45		○単位に着目して、4cm5mm+4cmや8cm5mm-7cmの長さの計算の仕方を考える。【思判表】	★もっとれんしゅう p.129に進む。
学びのまとめ	9	46~47	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。【知・技】たしかめよう問1~問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

5 たし算とひき算のひつ算(1)

目 標				指導時数・時期
○ 2位数の加減計算について、(2位数)±(2位数)の筆算の仕方や答えの確かめ方を考えたり説明したりすることを通して、計算の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11時間 2 学期制：5月下旬～6月上旬 3 学期制：5月下旬～6月上旬
(知) ・筆算の仕方を理解し、(2位数)±(2位数)の筆算を、一の位から順に、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、手際よく計算することができる。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を理解することができる。 (思) ・十進位取り記数法の仕組みをもとに、(2位数)±(2位数)の筆算の仕方を考え、説明することができる。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を使って、計算結果を確かめることができます。 (態) ・答えの見当づけや筆算の仕方のよさに気づき、進んで取り組もうとする。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を、計算結果の確かめにいかそうとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	124	・1年「100までのかけのけいさん」「大きいかず」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	48	・半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。	○空き缶拾いの場面で、34+12と立式し、その計算を筆算でする。【態度】
①たし算		49~50	・問3の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可) ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。	○(2位数)+(2位数)で繰り上がりのない筆算をする。【知・技】
	2	51	・半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問5の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可) ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。	○34+28の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(2位数)+(2位数)で一の位に繰り上がりのある筆算をする。【知・技】 ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。
	3	52	・問7の①⑤や問9の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)	○19+80や57+13の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○空位のあるたし算の筆算をする。【知・技】
	4	53		○たし算について、交換法則が成り立つことを知る。【知・技】 ○交換法則を使って、たし算の答えを確かめる。【態度】
●れんしゅう	5	54		○学習内容を確実に身につける。
②ひき算	6	55	・半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問3の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可)	○36-24などの(2位数)-(2位数)で繰り下がりのない場合の筆算をする。【知・技】
	7	56	・半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ・問5の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可) ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。	○53-26の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(2位数)-(2位数)で繰り下がりのある場合の筆算をする。【知・技】 ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。

	8	57	・問7の①⑤や問9の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うこと也可)	○26-21や35-27の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○空位のあるひき算の筆算をする。【知・技】	★筆算の仕方を順序立てて説明する。 ★もっとれんしゅう p.131に進む。
	9	58		○ひき算の答えにいくつ数をたすとひかれる数になることがわかる。【知・技】 ○たし算を使って、ひき算の答えを確かめる。【態度】	★たし算の答えをひき算を使って確かめる方法を考える。
●れんしゅう 学びのまとめ	10	59		○学習内容を確実に身につける。	
	11	60~61	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容を振り返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1~問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】振りかえろう	★やってみよう取り組む。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	62~63	○既習事項の確認と持続

思図をつかって考え方(1)

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	指導時数・時期
	1	64~65	・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。わからない数は□とすることをおさえる。	○あめ12個と5個をあわせる場面や色紙17枚から9枚使った場面を、テープ図に表す。【態度】 ○テープ図をもとにして、合併や求残の問題を解く。【知・技】	6時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月上旬～6月中旬
	2	66~67	・問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○子どもが24人いて何人か来て35人になった場面を、テープ図を使って表す。【知・技】 ○増えた数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え、解く。【思判表】	★似たような問題をつくり、図や式で表す。 ★もっとれんしゅう p.138に進む。
	3	68~69	・問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○ケーキが20個あって何個か配つて残り5個になった場面を、テープ図を使って表す。【知・技】 ○減った数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え、解く。【思判表】	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
	4	70	・問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○子どもが何人かいて9人来て30人になった場面を、テープ図に表して考える。【態度】 ○増える前の数を求める逆思考の問題を、テープ図を使って解く。【思判表】	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
	5	71	・問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ・問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○子どもが何人かいて13人帰って18人になった場面を、テープ図に表して考える。【態度】 ○減る前の数を求める逆思考の問題を、テープ図を使って解く。【思判表】	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
	6	72~73		○トマト20個のうち8個食べて残り12個になる場面から、算数の問題をつくり、その問題文にあう図や式を考える。【思判表】	★似たような場面をつくり、図や式で表す。

6 100をこえる数

小単元	時	ページ	目標	指導時数・時期
○	100をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、10や100を単位として数をとらえたり順序や大小、加減計算の仕方を考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			11時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月中旬～7月上旬

(知)	・1000までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、1000までの数を表したりよんだりできる。また、1000までの数の大小を比べることができる。				
(思)	・1000までの数について、100までの数と同じように、10や100などを単位としてそのいくつ分とみて表現したり、加減計算の仕方を考えたりすることができる。				
(態)	・1000までの数について、数え方を工夫しようしたり、十進位取り記数法のよさに気づいていかそうとしたりする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび (課題設定)	— 1	124 74~75	・1年「大きいかず」 ・問1では、10が10個で100であることや、100が2個で200、100が3個で300、100が4個で400、…、100が9個で900ということを確認する。	○既習事項の理解を確かめる。 ○星の数を10や100のまとまりに着目して数えることを通して、100をこえる数について調べていくという単元の課題をつかむ。 【態度】 ○365個の星の数え方やよみ方を理解する。【知・技】	
①100をこえる数	76				
	2	77	・問2から問4では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○三百六十五を365と、十進位取り記数法にもとづいて数字で表したり、数の構成を調べたりする。【知・技】	★もっとれんしゅう p.131に進む。 →
	3	78	・問7と問8では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○二百八のような空位のある3位数について、十進位取り記数法にもとづいて数字で表したり、数の構成を説明したりする。【思判表】	★もっとれんしゅう p.131に進む。 ↗
	4	79	・問1では、まず、お金の模型を使って、10円玉10枚で100円玉1枚に両替できることをおさえる。	○10を24個集めた数や360は10を何個集めた数かを考え、10を単位として数の相対的な大きさをとらえる。【思判表】	↗
	5	80	・問1では、100、200、300、…、1000と、100とびで数える練習をする。	○100のまとまりをつくって数える操作を通して、1000という数を知り、1000という数の構成や数の系列について理解する。【知・技】	★もっとれんしゅう p.132に進む。 ↗
	6	81	・問5では、数直線を見ながら、10、20、30、…、1000と、10とびで数える練習をする。	○数直線の目盛りの大きさに着目し、1000までの数の系列や順序について考える。【思判表】	↗
	7	82	・問1では、位取り板を使って数をかき、大きさの比べ方を考えさせる。	○十進位取り記数法の仕組みをもとに考え、3位数の大小を比較する。 【思判表】 ○数の大小を、>や<の記号を使って表す。【知・技】	★3けたの数の構成や相対的な見方の問題をつくり解きあう。 例) p.83の問2や問3
●れんしゅう	8	83		○学習内容を確実に身につける。	
②たし算とひき算	9	84	・お金の模型を使って、計算させる。 ・問3の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○10を単位とした数の相対的な見方を働かせて、80+30や130-90の計算の仕方を考える。【思判表】 ○(何十)+(何十)や(百何十)-(何十)の計算をする。【知・技】	★もっとれんしゅう p.132に進む。
	10	85	・お金の模型を使って、計算させる。	○100を単位とした数の相対的な見方を働かせて、200+400や800-600の計算の仕方を考える。 【思判表】 ○(何百)±(何百)の計算をする。【知・技】	
学びのまとめ	11	86~87	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう 問1・問2・問4 【思判表】たしかめよう 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

7 か さ

目 標	指導時数・時期				
○ もののかさについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してまでかさをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようになるとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。	6時間 2学期制：7月上旬～7月中旬 3学期制：7月上旬～7月中旬				
(知) ・ますの使い方や、かさの単位「L」、「dL」、「mL」のよみ方・かき方・相互関係がわかる。 ・かさを「L」、「dL」、「mL」の単位を用いて表したり、ますを使ってかさを測定したりすることができる。					
(思) ・かさの普遍単位の必要性がわかり、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりすることができる。					
(態) ・かさの測定に興味を持ち、適切な大きさのますを使っていろいろなもののかさを調べたり、身のまわりの入れものの容積表示を進んでみつけたり、身近な場面でいかそうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび (課題設定)	— 1	125 88	・1年「おおきさくらべ」 ・導入では、実際に1Lと1.5Lのべ	○既習事項の理解を確かめる。 ○はけつかさ比べを通して、単元	★長さを想起させ、大きさの違いを

	89	ペットボトルを用意しておき、場面をとらえさせる。	の課題をつかむ。【態度】 ○普遍単位の必要性に気づき、1L ますを使ってかさをはかり、1L のいくつ分でかさを表す。【知・技】	数で表すとよいという見通しを持つ。
2	90	・問3では、実際に1.5Lの水をペットボトルから1Lまでに移す様子を示し、場面をとらえさせる。	○長さの単位 dLについて知り、1dL のいくつ分でかさを表す。【知・技】 ○LとdLの関係を理解する。【知・技】	
3	91	・問3では、実際に340mLの水をペットボトルから1Lまでに移す様子を示し、場面をとらえさせる。	○単位 mLを知り、mLとdL, mLとLの関係を理解する。【知・技】	
4	92		○1Lのかさをいろいろなものに水を入れてつくり、1Lの量感を身につける。【態度】 ○1Lの量感をもとにして、身のまわりのいれもののかさを見当つけたり測ったりする。【思判表】	
5	93		○単位に着目して、1L5dL+5dLや2L5dL-5dLのかさの計算の仕方を考える。【思判表】	★もっとれんしゅう p.133に進む。
学びのまとめ	6	94~95	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	★やってみよう取り組む。 ○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1~問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】ふりかえろう

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
●どんな計算になるのかな(1)	1	96~97	○根拠にもとづいて、たし算やひき算の演算決定をすることができる。
●算数のじゅうけんきゅう	2	98~99	○「線路づくり」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	100~101	○既習事項の確認と持続

8 たし算とひき算のひつ算(2)

目 標					指導時数・時期
○ 3位数の加減計算について、(3位数)±(2位数)の筆算を考えたり説明したりすることを通して、計算や十進位取り記数法の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 2学期制：9月上旬～9月下旬 3学期制：9月上旬～9月下旬
(知) ・繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、正しく筆算で計算することができる。また、繰り上がりや繰り下がりの操作を通して、十進位取り記数法についての理解を深められる。					
(思) ・既習の2位数の筆算をもとにして、百の位に繰り上がるたし算とその逆のひき算や、簡単な場合の(3位数)±(2位数)の筆算の仕方を考えることができる。					
(態) ・既習の2位数の筆算をもとに、進んで考えようとする。また、筆算の仕方やそのよさがわかり、進んで活用しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	一	125	・2年「たし算とひき算のひつ算(1)」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	102	・導入で、54+38の筆算の仕方を確認する。	○54+72のような答えが3桁になるたし算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	★もっとれんしゅう p.133に進む。
①たし算		103	・半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をかかる。 ・問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第4時で扱うこと也可)	【態度】 ○(2位数)+(2位数)で十の位に繰り上がりのある筆算をする。【知・技】	
	2	104	・半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をかかる。 ・問7の①や問8の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第4時で扱うこと也可)	○65+78の筆算の仕方を考える。 【思判表】 ○(2位数)+(2位数)で一の位と十の位に繰り上がりのある筆算をする。【知・技】	★計算の仕方を、筋道立てて説明する。 ★もっとれんしゅう p.133に進む。

	3	105	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第4時で扱うことも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○36+58+97を筆算の形に表し、その計算の仕方を考える。【思判表】 ○3 口のたし算を筆算で計算する。【知・技】 	★計算の仕方を、筋道立てて説明する。 ★もっとれんしゅう p.134 に進む。
●れんしゅう	4	106		○学習内容を確実に身につける。	
②ひき算	5	107	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(百何十何)-(2位数)で百の位が繰り下がる筆算をする。【知・技】 	★もっとれんしゅう p.134 に進む。
	6	108	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 問5の①や問6の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○142-83の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(百何十何)-(2位数)で繰り下がりが2回の筆算をする。【知・技】 	★計算の仕方を、筋道立てて説明する。 ★もっとれんしゅう p.134 に進む。
	7	109	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 問9の①や問10の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○103-67の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(百何)-(2位数)で繰り下がりが2桁におよぶ筆算をする。【知・技】 	★計算の仕方を、筋道立てて説明する。 ★もっとれんしゅう p.135 に進む。
●れんしゅう	8	110		○学習内容を確実に身につける。	
③3 けたの 数の ひつ 算	9	111	<ul style="list-style-type: none"> 問2の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可) 	<ul style="list-style-type: none"> ○234+57や381-53の筆算の仕方を考える。【思判表】 ○(3位数)±(2位数)の筆算をする。【知・技】 	★もっとれんしゅう p.135 に進む。
学びのまとめ	10	112~113	<ul style="list-style-type: none"> たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3・問4 【態度】ふりかえろう 	★やってみよう取り組む。

思 図を つかって 考えよう(2)

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	114~115	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物を操作して、まずは、順に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○増増の場面の問題を、順に考えて解いたり、増える数に着目してまとめて考えて解いたりする。【思判表】 	★2つの解決方法を考えさせる。 ★図や式をつかって、考えたことを筋道立てて説明する。
	2	116	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物を操作して、まずは、順に考えさせる。解決後に、まとめる考え方での解決をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○減減の場面や増増の問題を、オペレータに着目して、まとめて考える考え方で解く。【思判表】 	★図や式をつかって、考えたことを筋道立てて説明する。 ★問2では、はじめの数は示さずに、はじめよりどれだけ減ったかを問う。
	3	117	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物を操作して、まずは、順に考えさせる。解決後に、まとめる考え方での解決をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○増減の場面の問題を、オペレータに着目して差し引きいくら増えたことになるかを考えて解く。【思判表】 	★図や式をつかって、考えたことを筋道立てて説明する。 ★問4では、はじめの数は示さずに、はじめよりどれだけ増えたかを問う。

9 しきと 計算

目 標	指導時数・時期
○ 式について、()の意味を理解し、()を使って1つの式に表したり等号や不等号で大小関係を式に表したりすることができるようになるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	2時間 2学期制：10月上旬
(知) 加法の結合法則の計算のきまりや()を使った式の計算順序を理解し、()を使った式の計算ができる。 また、等号や不等号の使い方を理解することができる。	3学期制：10月上旬
(思) ()を用いて1つの式に表したり、等号や不等号を用いて大小関係を式に表したりすることができる。 (態) ()や不等号などを用いると、考え方や数量の関係を簡潔に式に表せることに気づき、()や不等号などを用いて式に表そうとする。	

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	118~119	・まず、半具体物を操作して、2つの考え方のちがいを確認する。	○増増の場面で、2つの考え方を1つの式に表すという課題をつかむ。 【態度】 ○加法の結合法則が成り立つことに気づき、()を使った式の計算順序がわかる。【思判表】	★もっとれんしゅう p.135 に進む。 ★2つの解決方法を考えさせる。
	2	120	・問1では、問題場面をとらえたら、等号や不等号の記号の意味、使い方を確認する。	○消しゴムと鉛筆を買う場面で、150円で買えるかを考えることを通して、数量の相等関係や大小関係を等号や不等号を使って式に表す。 【知・技】	

★ 学びの サポート

ページ	学習内容
122~125	・じゅんび
126~135	・もっと れんしゅう
136~148	・算数しりょうしゅう

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

10 かけ算(1)					指導時数・時期
目標					
○ かけ算九九について、その意味や式について理解し、ブロックを操作する活動を通してかけ算になる場面をとらえて式にかいたり、かける数が1増えたときの積の増え方に着目して2~5の段の九九を構成したりすることができるようになるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					16時間 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月上旬～10月下旬
(知) かけ算の意味を知り、1つの大きさのいくつ分を求めるときにはかけ算を用いればよいことが理解できる。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。					
(思) ブロック操作をもとに、かける数が1ふえると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。					
(態) 累加の簡潔な表現としてのかけ算のよさに気づき、身のまわりからかけ算で表される数量の場面をみつけようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	一	122	・1年「おなじかずずつ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	2		○乗り物に乗っている人の数を調べる活動を通して、基準量の「いくつ分」という見方について理解する。 【知・技】	
①いくつ分とかけ算		3~5		○何個のいくつ分の表し方や計算の仕方について考えていくという単元の課題をつかむ。【態度】	
	2	6~7		○4人の3つ分など、離散量の場面をかけ算の式に表し、その答えを累加で求める。【知・技】	★かけ算の式をみて、ブロックを並べる活動を行う。
	3	8~9	・問7では、「1つの数」が何かをはっきりと言わせる。	○5cmの4つ分など、連続量の場面をかけ算の式に表し、その答えを累加で求める。【知・技】 ○身のまわりから、かけ算の式に表せる場面をみつける。【態度】	★もっと練れんしゅう p.126に進む。
②何ばいとかけ算	4	10~11		○基準量のいくつ分という見方をもとに、何倍の意味を理解し、かけ算の用いられる場面について理解を深める。【思判表】	★もっとれんしゅう p.126に進む。
③かけ算の九九	5	12~13		○乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることを使って、5の段の九九を構成する。【思判表】	
	6 ・ 7	14		○5の段の九九の唱え方を知り、九九のカードをつくるなどして九九を練習する。【態度】 ○5の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	★5のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	8 ・ 9	15~16		○2の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。【態度】 ○2の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	★2のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	10 ・ 11	17~18		○3の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。【態度】 ○3の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	★3のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	12 ・ 13	19~20		○4の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。【態度】 ○4の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	★4のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	14	21		○基準量が後に示された問題を、かけ算の式に表して九九を使って解決する。【思判表】	★問1のような問題づくりをする。 (乗数→被乗数) ★もっとれんしゅう p.127に進む。
●れんしゅう	15	22		○学習内容を確実に身につける。	★いろいろな唱え方(上から・下から・ランダム)で、九九のさらなる習熟を図る。
学びのまとめ	16	23	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	

* ふくしゅう			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	24~25	○既習事項の確認と持続

11かけ算(2)

目標					指導時数・時期
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
○かけ算九九について、アレイ図を使った活動を通して6~9の段や1の段の九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができるようになるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				○既習事項の理解を確かめる。	13時間 2学期制：11月中旬～11月下旬 3学期制：11月上旬～11月下旬
(知)・アレイ図を使った九九の構成の仕方やかけ算が用いられる場面について理解する。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。					
(思)・アレイ図をもとに、かける数が1ふえると積はかけられる数だけふえることを使って、九九を構成することができる。					
(態)・かけ算や九九のよさがわかり、進んで用いようとする。					
じゅんび	—	122	・2年「かけ算(1)」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	26		○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。【態度】	★6のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
①九九づくり	・ 2	27~28		○6の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。【態度】 ○6の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	
	3 ・ 4	29~30		○7の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。【態度】 ○7の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	★7のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	5 ・ 6 ・ 7	31~33		○これまでの学習をもとに8の段、9の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。【態度】 ○8の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】 ○9の段の九九を用いて、適用題を解く。【知・技】	★8のだん、9のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	8	34		○基準量が1のときのかけ算の意味を理解し、1の段の九九を構成する。【知・技】	★1のだんの九九の式から問題づくりをする。
	9	35	・問1では、「1つ分の数」が何かをはっきりと言わせる。	○問題づくりを通して、かけ算の理解を深める。【思判表】	★1つの式から2通りの問題をつくる。(被乗数→乗数、乗数→被乗数)
●れんしゅう	10	36		○学習内容を確実に身につける。	★いろいろな唱え方(上から・下から・ランダム)で、九九のさらなる習熟を図る。
②かけ算をつかったもんだい	11	37		○乗法と加法、乗法と減法を組み合わせて問題に取り組む。【思判表】	★もっとれんしゅう p.127に進む。
③図やしきをつけて	12	38~39		○同じ数のまとまりに着目して、L字型に並んだものの数をかけ算を使って求める。【思判表】	★もっとれんしゅう p.128に進む。
学びのまとめ	13	40~41	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

12 三角形と四角形

目標					指導時数・時期
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
○三角形や四角形について、観察を通してその分類や意味を理解し、構成要素を調べたり図形を構成したりすることを通して平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				○既習事項の理解を確かめる。	10時間 2学期制：12月上旬～12月中旬 3学期制：11月下旬～12月中旬
(知)・三角形、四角形、及び、長方形、正方形、直角三角形の意味を理解し、これらを弁別することができる。また、点を直線でつなげたり、紙をおったり、方眼紙を使ったりして、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。					
(思)・三角形、四角形の弁別について、直線の数に着目して考えることができる。また、辺の長さや直角に着目して、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を考えることができる。					
(態)・いろいろな三角形や四角形をつくったり、身のまわりから見つけたりしようとする。また、興味をもって、長方形、正方形、直角三角形を敷き詰める活動に取り組み、平面の広がりに気づく。					
じゅんび	—	123	・1年「いろいろなかたち」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	42~44	・点と点をしっかりと直線で結はせるようにする。	○動物を直線で囲む操作を通して、三角形と四角形の意味を知る。 【知・技】 ○三角形と四角形について調べていくという単元の課題をつかむ。 【態度】	★問2では、三角形や四角形といえるわけを説明する。

①三角形と四角形	2	45	<p>・問1では、かどの形をていねいにつくらせる。</p>	○三角形と四角形の弁別を行う。 【思判表】 ○三角形と四角形の構成要素について調べる。【知・技】	<p>★もつれんしゅう p.128に進む。</p> <p>★問4や問5で三角形や四角形であるわけを説明する。</p>
	3	46~47		○三角形や四角形の紙を2つに切って三角形や四角形をつくり、三角形や四角形についての理解を深める。【思判表】 ○身のまわりから、三角形や四角形の形をしたものをみつける。 【態度】	
②長方形と正方形	4	48	<p>・問1では、長方形をていねいにつくらせて、4つのかどが直角になっていることをおさえる。</p>	○かどの形づくりを通して、直角の意味を知る。【知・技】 ○身のまわりから直角を見つける。 【態度】	<p>★問1では、かどの形の折り方から、直角は平角(一直線の角)の半分であることに気づく。</p>
	5	49		○紙を折ることによる長方形の形づくりを通して、長方形について理解する。【知・技】	
学びのまとめ	6	50~51	<p>・問1では、正方形をていねいにつくらせて、4つの辺が等しくなっていることをおさえる。</p>	○長方形の紙を切ることによる正方形の形づくりを通して、正方形について理解する。【知・技】	<p>★もつれんしゅう p.129に進む。</p>
	7	52		○長方形や正方形の紙を斜めに切ることによる直角三角形の形づくりを通して、直角三角形について理解する。【知・技】	
学びのまとめ	8	53	<p>・問1では、長方形は向かいあう辺の長さが等しいこと、正方形は4つの辺の長さが等しいことをおさえてから、作図させる。</p>	○方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図する。【知・技】	<p>★身のまわりから直角三角形をさがす。 ★同じ2つの直角三角形から正方形や長方形、三角形をつくる。</p>
	9	54~55		○色紙を並べて長方形、正方形、直角三角形をつくる。【知・技】 ○長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて、模様をつくり、いろいろな图形をみつける。【態度】	
学びのまとめ	10	56~57	<p>・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。</p>	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	<p>★問3では、並べるときの規則性を意識して模様づくりに取り組む。</p> <p>★やってみよう取り組む。</p>

思図をつかって考え方(3)

目標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して数量の違いに着目して解法を考えることを通して、違いをみて考える考え方を使って解くことができるようになるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
(知)・2つの数量の違いを比べやすいように、左側をそろえて2つのテープ図に表すことができる。 (思)・2つの数量の違いに着目して、一方の数量が多いということは他方の数量が少ないとあるというようと考え、問題を解決することができる。 (態)・2つの数量の違いを図に表して考えるよさに気づき、進んで図を使って問題を解こうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	58~59	・問1では、どちらの点数が多いかを確認してから、赤組と白組のテープ図を示し、わかっている数量をかいて考えさせる。	○赤組と白組の点数を比べる場面で赤組が白組より4点多くて15点のとき、2つのテープ図を使って白組の点数を求める。【思判表】	★問2では、自分の力で2つのテープ図をかいて考える。 ★似たような問題をつくり、解きあう。
	2	60~61	・問2では、どちらのリボンが短いかを確認してから、赤いリボンと青いリボンのテープ図を示し、わかっている数量をかいて考えさせる。	○赤と青のリボンの長さを比べる場面で赤が青より10cm短くて30cmのとき、2つのテープ図を使って青のリボンの長さを求める。【思判表】	★自分の力で2つのテープ図をかいて考える。 ★似たような問題をつくり、解きあう。

活わくわく算数ひろば

学習内容					
小単元	時	ページ			
●どんな計算になるのかな(2)	1	62~63	○根拠にもとづいて、かけ算の演算決定をすることができる。		
●買えますか？買えませんか？	2	64~65	○1つ100円で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。		

* ふくしゅう

学習内容					
小単元	時	ページ			
	1	66~68	○既習事項の確認と持続		

13 九九の きまり

目 標					指導時数・時期
○かけ算九九について、九九の表の考察や九九の範囲をこえる乗法の計算の仕方を考えることを通して、乗法に関して成り立つ性質や九九の表のきまりを見いだしてかけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
(知)・九九の表を使って、同じ答えのかけ算をみつけたり、乗法に関して成り立つ性質を理解したりすることができる。					
(思)・九九の表の考察を通して、いろいろなきまりを見つけることができる。また、簡単な2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えることができる。					
(態)・九九の表やかけ算のきまりに関心をもち、進んできまりを見つけたり、活用したりしようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	123	・2年「かけ算(1)」「かけ算(2)」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	71	・1から9までの九九の唱え方を確認してから、九九の表をつくらせる。	○九九の表を完成させる。【知・技】 ○九九のきまりについて調べるという単元の課題をつかむ。【態度】	★九九の表を見て気づいたことを発表し合う。
①九九の ひょうと きまり	2	72		○九九の表を使って、乗数が1増えると積は被乗数の分だけ増える関係について調べる。【思判表】	
	3	73		○九九の表を使って、乗法の交換法則について調べる。【思判表】	★かけ算の交換法則が成り立つことを、●の図を使って説明する。
	4	74		○九九の表を使って、同じ答えがいくつあるかを調べる。【知・技】	
	5	75		○九九の表を使って、2つの段の答えの和や差について調べる。【思判表】	★かけ算の結合法則が成り立つことを、●の図を使って説明する。
	6	76		○ 4×12 といった簡単な(1位数)×(2位数)について、乗数と積の関係を使って答えを求める。【思判表】	★もっとれんしゅう p.129に進む。
②九九を 広げて	7	77		○ 12×4 といった簡単な(2位数)×(1位数)について、同数累加の考え方や交換法則などを使って答えを求める。【思判表】	★複数の解決方法を考える。 ★もっとれんしゅう p.129に進む。
	8	78～79	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

14 100cm を こえる 長さ

目 標					指導時数・時期
○100cmをこえる長さについて、新たな普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して1m以上の長さのものをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようになるとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
(知)・長さの単位「m」を知り、「m」と「cm」の単位の関係を理解することができる。また、1mのものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。					
(思)・大きな長さの単位の必要性に気づき、1mをこえる長さを表すのに適切な単位を判断することができる。					
(態)・身のまわりの1mをこえるものの長さを、見当をつけてから測ろうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	124	・2年「長さ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	80～81	・導入では、長さの単位にはcmとmmがあったことや、1cmと1mmの大きさについて確認する。	○両手を広げた長さを測り、100cmをこえる長さの別の表し方を調べるという単元の課題をつかむ。【態度】	
	2	82		○長さの単位mについて知り、m単位を使って長さを表す。【知・技】	★もっとれんしゅう p.130に進む。
	3	83		○1mの長さをテープなどでつくったり身のまわりから見つけたりして、1mの量感を身につける。【態度】	
	4	84		○1mの量感をもとにして、身のまわりの1mをこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。【思判表】	
	5	85		○ $1m50cm+40cm$ や $1m50-40cm$ といった簡単な場合の1mをこえる長さのたし算やひき算の計算をする。【知・技】	★もっとれんしゅう p.130に進む。
学びの まとめ	6	86～87	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1～問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	88~89	○既習事項の確認と持続

15 1000をこえる数

目標				指導時数・時期
○ 1000をこえる数について、そのよみ方や書き方を理解し、100や1000を単位として数をとらえたり順序や大小について考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				7時間 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬
(知) ・10000までの数をよんだり表したりすることができる。また、10000までの数のしくみを、十進位取り記数法にもとづいて理解し、10000までの数の大小を比較することができる。				
(思) ・既習の1000までの十進位取り記数法のしくみをもとに、10000までの数の表し方やしくみを考えることができる。また、100を単位にして、10000までの数の大きさをとらえることができる。				
(態) ・十進位取り記数法のよさに気づき、進んで10000までの数をよんだり表したりしようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	124	・2年「100をこえる数」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定)	1	90	・問1では、100が10個で1000であることや、1000が2個で2000、1000が3個で3000、1000が4個で4000、…、1000が9個で9000ということを確認する。	○紙の枚を100や1000のまとまりに着目して数えることを通して、1000をこえる数について調べていくという単元の課題をつかむ。 【態度】 ○2356枚の紙の数え方やよみ方を理解する。【知・技】
	2	92	・問4から問6では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○二千三百五十六を2356と、十進位取り記数法にもとづいて数字で表したり、数の構成を調べたりする。 【知・技】
	3	93	・問1では、まず、お金の模型を使って、100円玉10枚で1000円札1枚に両替できることをおさえる。	○100を24個集めた数や3200は100を何個集めた数かを考え、100を単位として、数の相対的な大きさをとらえる。【思判表】
	4	94	・問1では、1000、2000、3000、…、10000と、1000とびで数える練習をする。	○1000のまとまりをつくって数える操作を通して、10000という数を知り、10000という数の構成や数の系列について理解する。 【知・技】
	5	95	・問4では、数直線を見ながら、100、200、300、…、10000と、100とびで数える練習をする。	○数直線の目盛りの大きさに着目し、10000までの数の系列や順序について考える。【思判表】
●れんしゅう	6	96		○学習内容を確実に身につける。 ★身のまわりから1000をこえる数をみつけ、数の構成や相対的な大きさを考えたり、数の直線に表して大きさを比べたりする。
学びのまとめ	7	97	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1～問3 【思判表】たしかめよう問4 【態度】ふりかえろう

16 はこの形

目標				指導時数・時期
○ 箱の形について、観察を通して構成要素を調べたり、図形を構成したりすることを通して立体図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5時間 2学期制：2月下旬 3学期制：2月下旬
(知) ・箱の形を構成する要素(面、辺、頂点)とそれらの数を知る。また、面と面のつながり方や位置関係をとらえ、工作用紙やひご、粘土玉を使って、箱の形やさいころの形をつくることができる。				
(思) ・箱づくりを通して、箱を構成する要素(面、辺、頂点)に着目して、箱の形の特徴を見いだすことができる。				
(態) ・箱の形に関心をもって、箱の形を観察したりつくったりしようとする。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	125	・1年「いろいろなかたち」 ・2年「三角形と四角形」	○既習事項の理解を確かめる。
(課題設定) ①はこの形	1	98	・問1の①では、面を写し取るときに落ちや重なりがないよう、印をつけるなどの工夫をさせる。	○いろいろな箱を観察して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。 【態度】 ○面の形を写し取り、箱の面について調べる。【知・技】
	2	101	・問2の①や④では、辺や頂点を調べるときに落ちや重なりのないよう、印や色をつけるなどの工夫をさせる。	○箱の辺や頂点について調べる。 【思判表】

② はこづくり	3	102	・問1 の⑦では、面を写し取るとときに落ちや重なりがないよう、印をつけるなどの工夫をさせる。	○面をつないで箱を作ることを通して、面の位置関係についての理解を深める。【知・技】	★問1 の⑦では、面をどのようにつなぎあわせるかを説明する。 ★もっとれんしゅう p.133 に進む。
	4	103	・問1 では、第2時の学習を振り返らせながら取り組ませる。	○ひごと粘土玉を使って箱の形をつくることを通して、辺や頂点の位置関係の理解を深める。【知・技】	★問2 でも、実際に形をつくる。
学びのまとめ	5	104~105	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容を振り返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態度】ふりかえろう	★やってみよう取り組む。

17 分 数

目 標

指導時数・時期

○ 分数について、半分をつくる活動を通して $1/2$ の意味を理解し、 $1/2$ の半分やさらにその半分の大きさを調べたり、もとの大きさと分数で表された大きさの関係を考えたりすることを通して、簡単な場合の分数の意味を理解することができるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

4時間
2学期制：3月上旬
3学期制：3月上旬

(知) ・具体的な操作を通して $1/2$ や $1/4$ の意味を実感的に理解し、その大きさをつくったり分数で表したりすることができる。

(思) ・半分を2等分、半分の半分を4等分というように考えて、分数の意味をとらえることができる。また、図をもとに考えて、12個の $1/3$ は4個というように表現したり、4個の3倍は12個というようなことに気づいたりすることができる。

(態) ・半分や半分の半分などの大きさの表し方に関心をもち、分数で表そうとする。

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	125	・1年「おなじかずずつ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	106		○半分の大きさをつくり、その表し方について調べていくという単元の課題をつかむ。【態度】 ○半分の大きさの作り方を考える。【思判表】	★問1 では、半分のつくり方をいろいろ考える。
		107			
	2	108	・もとの大きさが何で、その半分の大きさが何かをはっきりさせる。	○テープを折って半分の大きさをつくることを通して、 $1/2$ (二分の一)という表し方とその意味について理解する。【知・技】	
	3	109	・もとの大きさが何で、その半分の半分の大きさが何かをはっきりさせる。	○テープを折って半分の半分の大きさをつくることを通して、 $1/4$ (四分の一)という表し方とその意味について理解する。【知・技】 ○ $1/8$ について知る。【思判表】	
	4	110~111	・もとの大きさが何で、その $1/2$ や $1/3$ の大きさが何かをはっきりさせる。	○テープの図をみて $1/3$ について知り、●の図を使って $1/2$ や $1/3$ の大きさを表す。【知・技】 ○●の図を使って、もとの大きさとその $1/2$ や $1/3$ の大きさの関係を調べたり、もとの大きさが違うときの $1/2$ や $1/3$ の大きさを比べたりする。【思判表】	★●の図をみて、「12この $1/2$ の大きさは6こ」とも「12こは、6この2ぱい」ともとらえられることに気づく。

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
●何番目	1	112~113	○いろいろな順序数の問題を、図にかいて考えることができる。
●よみとる算数	2	114~115	○日記から必要な情報をよみ取り、いろいろな問題を解決する。

* もうすぐ3年生(2年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	116~117	
	2	118~119	○2年生の学習内容の確認と持続
	3	120	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
122~125	・じゅんび
126~133	・もっとれんしゅう
134~144	・算数しりょうしゅう

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。